大正五年二月二十日發行

婦人衛生雜誌

第三百十五號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌

第三百十五號目次

講演

○婦人衛生の眞義

叢談

○水腫の話　醫學士　篠原昌治
○怪我の手當に就て　醫學士　鈴木平十郎
○身體精神の健康(三)　醫學士　渡邊房吉

育兒

○授乳時の攝生　千木庵主
○兒童の養護(承前)　ドクトル　三田谷啓
○少年衛生訓(承前)　ワイグル述　莊司秋次郎譯

家庭衛生

○一時性腦貧血の手當
○藥の用ひ方

抄録

○福壽暦

雜報

○加藤男爵薨去
○御乳の人
○女醫專生徒募集
○體操女教員講習會
○看護婦の不足

廣告

○本會例會○新潟支會新年會○新年會寄附○入會及轉居

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

例會通知

來る三月四日(第一土曜日)午後一時より神田區一ツ橋通共立女子職業學校内に於て本會例會を相開き左の講演有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引の上御來會被下度候也

一、分娩及産褥期の注意　　醫學士　河島右一君

大正五年二月

私立大日本婦人衞生會

アスピリンが市場に其影を絶ちてよりアセチールサリチール酸は跋扈し來れり然れども其副作用多きを如何にせん況や其價格の暴騰驚く可きものあるをや。

三共株式會社が前年來醫家に提供せるオポピリンは其本質をアスピリンに等ふし普通アセチールサリチール酸が有する副作用は全く除去せられ醫治效力一層顯著なり。

オポピリンは根本的に本會社に於て製造せるものにして輸入せるアセチールサリチール酸を改造せるものに非ず

解熱劑

何故に優越なるオポピリンを副作用多きアセチールサリチール酸同様の低價を以て發賣し得るか、本會社はオポピリンの原料たるサリチール酸を製造する日本唯一の大裝置を有すればなり、アスピリンを好む醫家はオポピリンを採用せられよ。

容量　結晶　廿五瓦入　半磅入　一磅入　錠劑　二十錠入の四種あり

東京日本橋區室町

三共株式會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講演

婦人衛生の眞義

本會の規則を拜見致しますと、その第一條に、斯う書いてある。

本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するにあり。

これで以て私立大日本婦人衛生會の目的は誠によく言表はされて居つて、殆ど間然する所はない。斯樣な目的に向つて會員が擧つて力を盡されるといふことは、實に貴ぶべきことである。世の中が一般に浮薄になり、淫靡になり、徒らに外飾を事とし、淺薄なる智識を鼻にかけ、賢げな理窟を臆面もなくしやべりたてたりするのが、賢婦人かのやうに思はるる世の中に、衛生といふ如き眞面目な問題に氣がつかれて、自個並びに一家の健康を維持する方法を講究し、延いて社會全般の幸福を增進することの出來るやうにと念ぜらるゝと云ふは、つまり花よりも團子を取られたので、如何にも難有い御心懸と存じます。我國の男子が悉く兵役の義務に服すべきものとして、既に小學、中學の時代より、軍人たるべき氣風精神を養ひ、多少軍隊的動作を學ぶと同樣に、我國の女子が平素良妻賢母たる資格の一つとして、是非一通りの衛生法を學び、特に育兒法、看護法等の智識を養ふやうになつたならば、その國家に貢獻する所は、實に偉大なるものがあらうと思ひます。

本會の創立は確か明治二十年と承はりますが、そ

の頃から見まするど、日清戰爭、日露戰爭を經て、今正に世界の大戰爭に參加しつゝある大日本帝國の位置狀勢は非常の變化を來して居ります。從つて本會の目的及び趣旨は固より變りますまいが、その目的趣旨の深さに於て、廣さに於て、將たその重さに於て幾段の變化がなければならぬと信じます。

それは如何なる變化であるかと申しますと、先づ創立當時に於きましては、設立趣意書の文面からも察せられます通り、主として個人衞生或は家庭衞生の智識を普及して實用に供し度いと云ふ考が眞先に立つて居るやうに思はれます。今日に於ても勿論、個人衞生或は家庭衞生は本會の本陣になつて居るのでありませうが、然しその意義の上に於て昔とは大分變つて來て居る。と申しますのは、昔は單に身體の榮養法は斯うするのが宜しい、淸潔法は斯うするのが適當である、或は哺乳兒は斯う取扱ふべきである、又看護には斯うするが便宜であると云ふやうな個々の事柄を聞いて、その場合に應じてこれを應用して實際に益を得れば足れりとしたのであります。つまり昔の祕傳とか家傳とか云ふやうなものを澤山覺えて應用をすると云ふ格に止まつてゐたのであります。然しながら今日の合理的の衞生法は、縱令個人衞生であらうが家庭衞生であらうが、總て大きな衞生學の系統の一部分になつて居りまして、個々に緣が切れては甚だ薄弱なものとなり、忽ち邪路に陷いるのであります。それでありますから、今日では、お芋を煮る法よりも、榮養品調理法といふ所に目をつけ、乳粉を作る傳を覺える代りに、哺乳兒榮養法の全般を窺ふと云ふ風になつて來て居ります。

次には、昔は主として個人衞生だけに意を注いだ傾がありましたが、今日では公衆衞生或は社會衞生と云ふことを常に念頭に置て個人衞生を論ずるやうになりました。例へば種痘の如きも、最初は健康なものが疱瘡を植えられるのは、假令豫防になると云ふことを知つて居つても、隨分迷惑に感ぜられたものであります。それを今日では何れの親も進んで自分

の子供に種痘を施すやうになりましたのは、一般に衞生思想が進むだ結果でありますが、一方から見れば、個人衞生と公衆衞生との連絡が密接になつたのであります。

これは將に斯くあるべきことで、社會一般に衞生思想が幾分の進步を示したのであります。それで本會の目的も幾分か達せられたと同時に、その期する所は漸次遠大となり、深廣を加へて來るのは當然のことであります。即ち從來は主として銘々の健康を保持する方法を講究したのでありますが、今後は更に一步を進めて日本婦人の健康を增進し、體力を增强する方法を講究する必要が生じて來たのであります。從つて規則第一條の後半部、即ち「衞生上の智識を開發し、社會全般の幸福を增進するにあり」と云ふ宣言に重きを置かなければならぬことゝなつたのであります。これは衞生學の進步と云はんよりも、從來は專ら日本國內の女子としての衞生だけを考へて居つたのですが、今や世界列强の間に立つた大日本帝國の婦人衞生問題になつたからであります。

そこで今日、大日本婦人衞生上、第一に考へなければならぬことは、目下國家の存亡を賭して戰ひつゝある彼の歐羅巴諸國の人民、彼の諸人種と我々日本人とを眞面目に比較して見ることであります。その精力、言ひ換へればその體力に於て、我々は少なくとも彼等の中の强者に劣つて居りはせぬか何うかと云ふことであります。忌憚なく申せば、我々の體格、體力は何う見ましても彼の獨逸人、露西亞人等より勝つて居るとは申しかねる、否實際甚しく劣つて居るのであります。英國人よりも、亞米利加人よりも遙に劣つて居るのであります。これは遺憾千萬なことで、又實に憂ふべき事實であります。然し若しこれが人種の相異で、如何とも致し難い天命であるとすれば、已むを得ず泣寢入りをして、せめては現在の體格體力を維持して、他國、異人種の衰弱頹廢するのを待つと云ふやうな消極的態度をとるより外に仕方はありますまいが、今日の學問、殊に人種衞

生學の見地から見ますると、國民の體質及び體格は、善くすることも惡くすることも出來るものであります。特に我々日本民族は、この點に於ては異常の潛勢力を有つて居る、と信ずべき事實があるのであります。さすれば國民の健康を維持し、更に一歩を進めて、現今の狀態よりも一層强健なる國民となるべき有ゆる手段方法を講じますならば、この國民は世界第一の强健な人民より成り、眞に內部より充實した國家を形成するに至るに相違ない。少なくとも今日の世界最强國の人民位の體格になることは毫も疑のない所であります。

此の如く積極的に、どしどし體格を改善して行くことが可能であるといふ確信が立てば、茲に又婦人衞生の向ふべき一大方針も定まつて來るわけであります。卽ち大正の婦人衞生問題は何を以て最も主要のものとし、何を主眼とし、何れに向て力を致すべきか。これにも種々ありませうが、兎も角も日本國民の體力をして世界最第一たらしめむと云ふのが、標的であります。これに就ては、數限りもなく婦人の奮勵努力を要することが湧いて參りますが、先づ極く大切な項目だけを擧げて見ますならば、

一、世界第一の强健婦人國となるを願とし、日本婦人の體格體質を改善するに全力を盡すこと。

二、健全なる小兒を生みて國家に獻ぐるを以て最大の義務、最大の名譽とすべきこと。

三、强健なる次代の國民を造るは婦人の任と心得完全なる育兒法を學び、一切の育兒事業に出來得るだけの力を盡すこと。

尙ほ幾個條も揭げられませうが、先づ第一項の如く、日本婦人の體格體質を改善するに全力を盡しますならば、その成績は實に驚くべきものがあらうと思ひます。私は日本の女兒は、もう少し體育に注意さへするならば、一代で以て丸で別人種の如く立派なる婦人が出來ると信じて居るものでありますが、縱令三十歲、四十歲を超えた人でも、我國の婦人には尙ほ體育を施す餘地がある、而して僅かに姿勢を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

正し、少しく運動を勧めるのみでも、顯著なる效果あることを認めるのであります。この點は非常に頼もしいと思ふ。それで既に成人した御婦人、否五十、六十の御老人と雖も、將來の日本國民の健康を祈る考で、奮發して御自身の身體を出來るだけ衞生的に矯正し、保護されるやうに致したいと思ひます。この第一項の實施法に就きましては、又種々の事柄があつて、一大問題でありますから、今日茲に申上げるわけには參りませぬが、果て克く、この第一項に意を用ひられますならば、第二項は當然の結果として得らるゝことであります。健康な小兒は何うしても健康な母から生まれる理であります。健康な小兒を多數國家に獻げ得ることは確かに婦人最大の功勞で、又義務であります。佛蘭西、獨逸とかいふ國國では近年漸次婦人が子供を生む數が減つて參りまして、非常に狼狽して、その原因を取調べるやら、政治家も醫學者も法律家も教育者も全力を注いで、これを挽回することに腐心して居りますが、實に直接國力の消長に關する根本的の一大問題でありますから無理もないことであります。幸我國には未だ斯樣な不吉な現象が現はれて居りませぬけれども、若し婦人の愛國心が弛み、弛まざるまでも、更に一層世界的の眼から愛國心が強くならぬならば、漸次生活が困難になるにつれて、如何なる不吉の現象が起つて來ぬとも限らぬのであります。これは今日より大に注意して置かねばならぬことゝ存じます。第三項も第二項の精神がありますならば、必然成就せらるべき筈の事柄でありまするが、健全なる次代の國民を造るといふことは、大部分婦人の力に俟つのであります。これにも種々の要件がありまするが、兎も角も完全なる育兒法の智識が普及され、何れの小兒も自然の發育を遂げるやうにならなければなりません。この點は遺憾ながら我國に於ては甚だ幼稚の狀態であります。西洋人は、今日では人の兒は人の乳で育てなければならぬと云ふことを盛に敎へますが、それでも矢張牛の乳を以て育てるものが

非常に多い、之に反して我國の婦人は大抵自分の乳を以て育てるにも拘らず、統計上で見まするど我國の哺乳兒死亡數は、なか／＼多いのであります。これは確かに育兒法の智識に乏しい、その方法に間違が多いからであらうと思はれます。實際無法な育て方をするものが非常に多いのを認めるのであります。これが又日本人の壽命の統計上に現はれて十數年前までは兎も角も四十幾歳の平均壽命であつたものが、近年では三十幾歳に縮むだと云ふことであります。實に心細い話であります。これには種々の原因がありますけれども、最も主なる原因は小兒の死亡率が多くなつたからであると云ふことであります。これに依ても我國の婦人が更に一層育兒法、小兒の養護と云ふことに意を注いで、西洋人に負けぬやうに、日本人の平均壽命も漸次延びるやうに力めなければなりません。實際西洋では我國とは反對に近年益々乳兒死亡率が減じ、平均壽命も延びて來て居るのであります。これは全く衞生進歩の御陰である、特に育兒法、小兒保護法といふやうな事が非常に進歩し、又一般の婦人がこれが爲に熱心に力を盡した結果に外ならぬのであります。大變、話がごたごたして長くなりましたが、略ぼ婦人衞生の眞義はこの中に認められました事と信じまして、機會がありますれば、又改めて委細の事を申述べたいと存じます。

叢談

水腫の話

醫學士　篠原昌治

人間の口腔より攝取せられました食物及び飲料の中に含まれて居る水分は、それが消化機官即ち口腔、胃、腸等より吸收せられ、人體に必要なる作用を營

むものでありまして、既に其用事を濟ましたところの不用產物や、又必要以上に攝取せられた過剩の水分は尿、糞便、汗其他となりまして體外に排出せらるゝものであります。而して此等の水分排泄の中で尤も主要なる仕事をして居るものは尿であります。尿と云ふものは如何にして出來るかと申ますれば、其は腎臟が血液中より水分を受取り、腎臟細胞の機能によつてそれより尿を製造し、これを輸尿管、膀胱、尿道を通じて體外に排出するものであります。然るに此機能に何か障碍が起つて、體內に於て既に不用となつた水分を尿として體外に排出することが出來ぬ場合には、其水分が行くべき場處がありませんから、遂に皮膚に集り水腫を生ずるものでありまして、それは恰も、水流の一部分に堰が出來て充分に流るゝことが出來ぬ時に、其水が兩岸に溢れて附近の土地を濕ぽくするのと同じ理由であります。水腫は人體の何れの部分に來るかと申ますに、何處でも水腫の出來ぬと云ふ場所は有りません、若し病氣が進行しますれば、全身の皮膚が悉く水氣を持つ樣になることもあります、然し病氣の初めには、普通身體の各部が同時に水腫を來すものではありません、最初に水腫の現はるゝ部位は、病氣の性質によつて異なつて居りますけれど、一般に先づ下肢に來ることが最も多くあります、然し時としては下肢の方には少しの水腫もなくして、唯顏面にのみ來ることもあります、全身病の爲めに來る水腫でありまして、下肢にも顏面にもなくして、其他の部位から始まると云ふことは極めて稀なことであります。

水腫のあるかないかと云ふことを決定することは、高度の水腫の時には極めて容易でありまして、唯見たばかりでも直ちに之を知ることが出來ますけれど、其初期に於きましては、常に容易く分るものではありません、隨分熟練した人でもその有無を決定するに頗る困難を感ずることがあります。殊に肥滿して居らるゝ人などでは分り兼ぬるものであります。それでは水腫があるかないかと云ふことを檢查

するには如何にすればよいかと申しますに、先づ兩側下肢の膝關節と足關節との中間、即ち普通脛と申します部分の前面の內側で見るのであります。其處は皮膚の直下に骨がありますから、其所の皮膚を指先で押しますれば、水腫がある場合には皮膚が凹みまして指の跡を明らかに見ることが出來ます。尙其處を手指又は手掌で撫でてみますれば、一處が窪くなつて居ることを觸知することも出來ます、其他の場所でありましても、皮膚に水腫があれば、其を押しますれば指跡が出來る筈でありますけれど、皮膚の下が軟かな場處でありますと、其部分全體が凹みまして、只皮膚だけが特別に凹むと云ふことがありませんから、若し其水腫が輕症であつた場合には、指を離しますと又もとの樣になつて、指の跡を明らかに見ることも又觸知することも出來ぬことがあります、其他の部位で身體に水腫があると云ふことのよく氣の附きますのは、眼瞼でありまして、患者から眼が腫れぼつたくなりましたから身體に水腫が來たのでしよう、と云ふ樣な事を聞かさるゝことが屢屢あります。

然し皮膚を指先で押して、指跡が出來たからと申しましても、必ず水腫があるときまつたものではありません。肥滿した人、殊に皮膚の軟かい婦人でありますと指でひどく押しますれば、たとへ水腫はありませんでも少し位の指跡は出來ることがあります。然しそう云ふ場合には指を離しますれば程なくもとの樣になりまして、長く指跡を止むると云ふ樣なことはありません、其故皮膚を指先で押してみて少しでも跡がついたからと云ふて、其人が何か水腫の來る病氣に罹つたものと考へて心配するのは全く無益のことであります、若し疑はしい場合がありましたならば、信用ある醫師の診斷を受けて、それが本統の水腫であるか否かと云ふことを確めて置くことが大切であります。

それでは水腫は如何なる病氣の時に來るものであるかと申ますに、最も多きものは、諸種の心臟病、腎

臟病、脚氣等であります、之に次で貧血、衰弱等にも來るものでありまして、長く病牀に就てひどく衰弱した病人の足部に水腫が來れば死期の近いたのであるとは誰もよく云ふことであります、其他水腫は種々の病氣の時に來るものでありますけれど、此等に就て一々委しく申上げますれば却て繁雜を來すばかりでありますから悉く省略することゝ致します。

それでは心臟病、腎臟病、脚氣等の時には、其水腫の出來工合が各病氣によつて異なつて居りまして、其水腫の模樣によつて病氣の性質を判斷することが出來るかと申ますに決してそうではありません。然し此三者の水腫には其間に多少の相違がありましで、其によつて病氣の診斷をつける補助となる位のことはあります即ち脚氣の時の水腫は多く下肢の方から參りまして、身體の上半身から始まると云ふことは殆んどないと云ふてもよい程であります、之に反して、腎臟病の時には水腫が下肢にも參りますけれど、多くは先づ顔面にあらはれ、殊に眼瞼が腫れて居ると云ふことを注意せらるゝ場合が多くあります。心臟病の時には、全身同時に水腫が來ることが多くありますけれど、前申上げました通りの理由で他の場處の水腫は分り兼ねますから、矢張り下肢の水腫が先づ注意せらるゝことが多くあります。

水腫の來る病氣の時には、多くは動悸が之に伴ふものであります、其は例へば心臟に病氣があります時には其爲に身體の血液の循環がわるくなります、其故心臟は之を補ふ爲めに強く働きまして、それで動悸がする樣になります、然し心臟が強く働きましても、其れに由つて充分に血液の循環をよくすることが出來ない時には、遂に水腫が來る樣になるものであります、又腎臟病の時には、尿を造るべき腎臟の働作がわるくなり、其爲に身體に不用である水分を充分に排泄することが出來ないで、餘計の水分が血液中に溜まつて居りますから、其を排出する爲に心臟が強く働きまして動悸を生ずるものでありま

す、元來水腫は、凡て血液の循環が工合よく出來ぬ時に發生するものでありますから、何れの種類の水腫でありましても、必ず心臟の作用とは一定の關係を有するものであります。

水腫は又尿量とも一定の關係を有するものでありまして、水腫のあります場合には一般に尿量が減少するものであります。諸種の水腫の中で、最も高度の水腫を來す病氣は腎臟炎でありますが、其際には尿量が著しく減少しまして普通健康人の尿量は一日千二百乃至千五百立方仙迷位でありますけれど、それが其半量又は其以下甚しき時には百五十乃至二百立方仙迷位しか出ない樣になることがあります、其時藥劑の爲か、又は其他によつて尿量が多くなれば其と同時に水腫の方も輕快するものであります、然し水腫がある際には、常に尿量が少くなるときまつたものではなく、種々の疾病の末期になりまして、衰弱の爲に水腫が來ることがありますが、其等の場合には尿量は必しも減少すると云ふ譯のものではありません。又重症糖尿病の際にも水腫が現はるゝことがありますが、其際は常に多量の尿は排出しながら水腫を生ずることもあります。

斯く申上げますと、水腫は常に危險な病氣に伴ふてのみ現はるゝものゝ樣でありますけれど、必しもさう云ふものではありません、顏や下肢に輕度の水腫がある患者の來られました時に、心臟を充分に診察しても何等の異狀もなく、腎臟炎ではないかと思ふて尿を檢査しても、蛋白質や圓壔の樣な腎臟炎に固有なものを發見することも出來ず、脚氣かと思ふて其方を調べて見ても他に少しも脚氣らしき症狀とてもなく、其他に於きましても、何等の水腫を來すべき原因を發見することが出來ないことがあります、斯る場合に少しの利尿劑でも與へますか、又は何等の治療を加へないでも、暫くすると其水腫が全く消退して再び發現すると云ふ樣なことのないこともありまして、斯る事實は臨牀家は屢々實驗する處であります。其故水腫は、常に恐るべきものである

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と云ふ譯のものでもありません。
それでは、水腫の起つた時には之を如何に治療すればよいかと申ますに、其は凡ての他の病氣と同樣に先づ其原因を取除くと云ふことが尤も大切であります、元來水腫は唯それだけの病氣であると云ふことは全くないではありませんけれど、其は極めて稀なことでありまして、普通は身體に一定の病氣があつて其症狀の一として現はるゝものであります、而して水腫は極めて輕症な病氣の時に生ずることは比較的稀でありまして、多くは重き病氣が其陰に潛んで居るものでありますから、少しの水腫がありましても之を等閑にして置かないで早速醫師の診察を受けて其原因を確め、其注意によつて適當なる治療法を施すと云ふことを怠つてはなりません。
水腫のある時の養生法としては、多くの場合に於きましては身體を安靜にすると云ふことが尤も大切であります、殊に心臟病、腎臟病の時に於てはそうであります、脚氣の時には重症の場合には、身體の安靜と云ふことは尤も必要でありますけれどもまだ輕症で餘り心臟の方がわるくなく、唯下腿に少しの水腫があると云ふ樣な時には、運動を禁ずる必要はありません、食物の關係も、病氣の性質によつて大に相違して居りまして、心臟病の時には特に何等の注意も要しませんけれど、腎臟病の際では酒精分刺戟性の食物と云ふ樣な、腎臟病そのものにわるいものを禁ずるだけでなく、食物中の鹽分を出來るだけ減少しますれば、水腫が早く治癒するものと考へられて居ります、水腫がある時に水分を攝取すればそれで水腫が增加するからと云ふて成るべく液體のものを取らぬ樣にせらるゝ人もありますけれど、口腔から飲んだ水分が直ちに水腫となつて現はるゝものでもありませんから、常に液體の分量を制限せねばならぬときまつたものでもありません。然し其等の事は成るべく醫師に聞いて其指圖に從ふ方が安全かと思はれます。藥劑で水腫を治療するには、心臟の力を強くする藥を與へたり、又下劑を與へて大便と

共に身體の水分を取去り、又は利尿劑を用ゐて尿量を多くし、それに由て水腫を消退せしめようと企つることもありますけれど、此等は凡て醫師の手によつて行はるゝことでありますから爰では申上げぬことゝ致します。

怪我の手當に就て

醫學士　鈴木平十郎

前回は止血法に就て述べましたが、次は創傷内化膿菌侵入防止法を御話しいたしましよう。

化膿菌即ち醸膿菌には種々ありまして外界到る處に存在して居ります、之が人體内に侵入して繁殖し、人體組織との間に爭闘を開始し炎症を起し遂に化膿を惹起するのでありますが、總ての場合必ず化膿するとは定まりません、何となれば元來人體には化膿菌に對し抵抗する物質が存して居りまして、僅な細菌は之に由り直ちに死滅せられ何等病的現象を起さないものであります、然しながら細菌の毒が旺盛なるとき或は之が多量に侵入する場合には人體は之を死滅せしむることが出來ず之が繁殖を來し遂に化膿性炎症を起すことになるのであります。又人の健康狀態等に由り抵抗力の弱き場合も亦同じことであります。

通常の創傷は必ず多少の化膿菌が附著して居ると見做さなければなりませんが前述の理由で必ずしも化膿性炎症を起すものではありません、又化膿菌の繁殖に大なる影響を有して居るものは創傷の性狀であります、即ち挫創、例へば石の如きもので指を挫滅したと云ふ樣な場合には創傷をうけました部分の組織細胞が死滅して所謂壞死を起し爲に細菌に對する抵抗力が著しく減じますと同時に生活力を失ひました組織は細菌にとりましては都合のよい繁殖場所となります故化膿性炎症を起し易いのであります、之に反し切創の如く組織の傷害されることの尠

いときは化膿性炎症を起すことが稀であります、此の事實は何人も實驗せらるゝ所であります。斯の如く一般の創傷には化膿菌が侵入して居るとしますれば之を滅することを計らなければなりませんが悲哉之は不可能であります、昔は石炭酸又は昇汞水の如き殺菌藥で洗滌いたしましたが、近來一旦侵入した細菌は速に深部に侵入し、又其他の事情で如何に强力なる殺菌藥を以てしましても之を絕滅することゝ不可能であるのみならず却て組織を害し細菌の繁殖をして好都合ならしむる不利あるを知りましたので現今では創面を決して消毒藥で洗滌いたしませず只受傷後新に細菌の侵入を防止する法を講ずる事が創傷療法の主眼とされて居ります、又實際化膿性炎症は受傷後不潔なる器械、手布片等より化膿菌を移され化膿性炎症を起すことが多いのでありますゝ然らば如何にして之を防止するかと申しますと創傷附近の皮膚は嚴重に消毒し、創面には不潔の器具、手等を觸れしめず、又洗滌、摩擦等の器械的刺戟及び消毒藥の化學的刺戟を避け、單に滅菌「ガーゼ」を以て之を被覆するのであります故に創傷の應急手當はこの主眼たるべき點を無視してはなりません、卽ち先づ出血に對する手當を施し然る後に創面を檢しもし不潔にして異物例へば泥の如きもの附著するときは過酸化水素が備へてあれば之にて輕く洗滌し、若し備へてなくば全然何等器械的刺戟を與へぬ方が宜しう御座います。

皮膚の消毒藥としましては沃度丁幾が最も適當ですが良品は通常手に入れ難く、又人に由り「カブレル」ことがあります故單に藥用「アルコホール」を使用する方が安全です、但し創內に入りますと疼痛を起しますす故　特に小兒に對しては注意を要します、其他五十倍の「リゾール」水は比較的無刺戟でありますから使用しても差支ありません。

創傷を被覆いたします滅菌「ガーゼ」とは如何なるものかと申しますと、通常の「ガーゼ」を一定時間高熱を有する水蒸氣に觸れしめたもの卽ち熱氣消毒を施

したものであります、これは化膿菌が百度以上の高熱に遇へば直ちに死滅すると云ふ事實に基いたものであります、斯の如くして滅菌「ガーゼ」を製するには特別の裝置を要し面倒ですが小兒の多い家庭などでは小さき消毒鑵を供へ醫師に依賴して熱氣消毒を施し貯へらるゝ方が宜いと思ひます、滅菌「ガーゼ」を取扱ひますのには必ず一旦煮沸した「ピンセット」又は止を得ずんば火箸の如きものを以てしなければなりません、「ガーゼ」の上は脱脂綿にて被ひ繃帶を施して手當を終るのであります以上は理想的の法ですが煩雜であります故單に「ガーゼ」を鍋の中で煮沸し「アルコホール」で拭ひたる金屬の棒へかけ天日で乾燥せしめ空鑵又は「ガラス」の廣口瓶を「アルコホール」で拭ひ其內へ貯へて置いても宜しう御座います、不完全ですが尙ほ簡單なのは通常の「ガーゼ」を使用に望み五十倍の硼酸水に浸しよく榨りて使用する法です、勿論榨るときには手をよく洗はねばなりません、若し又「ガーゼ」藥液等の用意が無い場合には止を得ませんから前回述べました如く比較的清潔な布片例へば新しく洗濯した手拭の如きもので間に合せるより仕方がありません。

顏面等の淺い擦過傷でありますれば周圍の皮膚を消毒して「キセロホルム」又は「デルマトール」等を撒布してなるべく外物に觸れぬ樣にして置きますと自然に痂皮(カサブタ)を作りまして治癒いたします。

最後に御注意いたしますのは右申述べた應急手當に安んずることなく必ず醫師の診を受くることであります。何となれば外見は小く且淺い樣な創傷で案外深くして大切なる筋、卽ち筋肉の腱或は神經等の切斷されて居ることが尠くありません之を放置しますと取返しのつかぬことになります必ず創傷は外科醫の檢査を乞はねばなりません。

身體と精神の健康（三）

醫學士　渡邊房吉

人の氣質は其顔の一様でないやうに、百人百色、千人千色であります。此各人各様の氣質は、「氏より育ち」の俚諺の通り、其生育の狀態、教育の影響、周圍（境遇）の感化、その他の關係に原因することも多いのでありますが、而かも所謂「天性」で、如何ともする事の出來ぬものがあります。

生後未だ一ケ年に滿たない小兒で、教育の影響も、周圍の感化も、未だ充分及ばない時でも、俗に所謂「三歳兒の魂百歳まで」もの諺の通り、或は癇が強いとか、或は氣が弱いとか、將來如何やうに生ひ立つであらうとか、大方想像が付くものであります。たとへば、太郎と云ふ兒は、搖籃のうちから手荒で、強情で、根性がねじけてゐて、父母や保母の云ふ事を一向に聞き入れないに拘らず、次郎と云ふ兒は、柔順で、うち氣で、やさしくて、人の言葉を能く聞き入れて又能く之を守ります。お靜さんは、途上に惱やんで居る人を見れば、不憫の情にかられて、同情の涙が堰き止め難いほどでありますが、お荒さんは至つて無情冷淡で、同情の涙は愚か、場合によつては更に之を苦しめないとも限りません。

私の長女は、春の彌生の若芽吹く頃に生れましたので、「和香子」と名づけました。私の次女は、東郷大將が日本海の海戰で、さしも勇武に誇つて居つた彼の露西亞艦隊の主力を全滅さした頃に生れましたので、「勝海」と名づけました。而して私の三女は、日露の戰雲が全く收まつて、四海は泰平の腹鼓をうつ頃に生れましたので、「泰代」と名づけました。同じ人を父母として生れ、同じ境遇に生ひ立つた此三人の姉妹は、生れながらにして各々異つた三種の氣質を持つて居ります。長女和香子と三女泰代は氣がやさしく、物事が叮嚀で、一體に大人しいが、次女勝海は氣が荒くて物事に頓著せず、人と爭つても敗けると云ふことはありません。一日窓から家の中へ

一羽の雀が迷ひ込んだ事があつて、之を生擒に致しましたが、長女は「可愛相だから放して下さい」と頼みます、次女は鳥籠の中へ入れていたづらにしたい」と云ひます、三女は同じく「籠の中へ入れ餌食をやつて親切にしてやりたい」と申します。此三個の希望の中には夫れ〲異つた氣質が現はれて居ることゝ思ひます。

此の如く異つた氣質は、或は其人の特性とでも申しませうか。此特性は生長するに連れ、世の中の事情のために、其凹凸部を擦り減らされて、多少變化するには相違ありませんが、其中軸は終始一貫して居るものであります。即ち小供の時の氣質で其生涯の氣質の想像されるのは、早朝起き出して仰いで見る東の空の模様で、其日の晴雨がトはれるやうなものでありませう。

こう云ふやうな生れながらの氣質は、先天性の素因、遺傳の關係に根源するもので、生後如何ともすることの出來ぬものであります。

＊　＊　＊　＊　＊

生來腦髓の發育の惡い小兒は、所謂痴呆或は智識の低能で、智力は鈍く、氣力も乏しく、到底常人の智的發育を望むことの出來ぬのは、本誌前號で述べた所でありますが、矢張り先天的素因の關係から、至つて怜悧發明で、學校の成績も頗る優等で、天晴れ秀才よ、神童よと云はれて居る人の中に、道德上のことに就ては甚だ冷々淡々として氷の如く、他人の窮狀を見ても對岸の火災の如く、毫も惻隱の心を起さず、只自我の念のみ強いものがあります。之は即ち智性は充分であつて、道德性の缺乏して居る人であります。

元來人には道德性と云ふ一種の性質が備はつて居つて、此性質は智識才能とは必然的關係は無いやうであります。昔から聖人君子と云はれた人には、すべての善良なる性質が圓滿完全に備はつて居つたものでありますが、凡人には甲の性質は申し分無いが、乙の性質は不充分であると云ふ有樣であります。殊

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に道徳的低能と云つて、道徳心の甚だ不足して居る人があります。斯様な道徳的低能の人、即ち生來道徳心の缺乏して居る人のうちには、事理を了解するに頗る敏捷で、利害の判斷は極めて明晰で、事業に傾注する勢力は驚くほど絶大で、而かも他人に對する關係は甚だしく冷淡無情である者が少くはありません。斯かる人の知識は、外觀上たとへ深廣であるやうに見えても、片輪の知識、部分的の知識、善と惡とを識別するの能力に鈍い知識であつて、餘りに感服できぬ卑むべき知識であります。かやうな人に道徳を教へ、人倫を說き、宗教を話しても全く無用であります。彼には之を理解するの能力を所有して居りません。音樂の趣味や素養の無い人には、梁上の塵をも動かぬ妙音も、市井の雜踏騷擾と何の選む所がなく、所謂蛙鳴蟬噪を聞くと同樣であります。道徳的低能の人が、善事に對して全く無關係沒交渉で、善の善たる所以を解することの出來ないのも、亦た之と同樣でありませう。

智的低能の高度なのを癡呆と云つたやうに、道徳的低能の極度なのを悖德狂と稱します。悖德狂と稱するやうになれば、既に善惡の概念が無く、從て平素惡事悖德の行爲ばかりして居ります。人を苦しめさいなみ、人の物品を竊盜或は强盜し、人の家に火を放つて燒き拂ひ、或は人を殺して樂しむと云ふやうな事ばかりをして居ります。

かう云ふ者になると、此の如き惡事非行を惡いとは思つて居りません。之にいろ〳〵諭した所が、植木屋が辛酸勞苦して培養した花園へ荒れ込んで、花を折り、鉢を倒し、尙ほ東西に驅けめぐる犬に向つて、「汝の行爲は惡い」と云ふが如く、何の效能もありません。

毎朝見る新聞の三面記事には、隨分ひどい事ばかりが書いてありますよくも新聞種が盡きないと思はれるほど人非人の事柄が多い。監獄は罪人で一杯であります。監獄が空になつたと云ふ話を聞きません。

是等多數の罪人惡人の中には、獄中の苦役や、教誨師の說教で、前非を悔悟して善人に立ち還るものもありませうが、又一向平氣で、出獄すれば再び三度び同樣の惡事をして、又も獄中生活を送ると云ふ前科者も多いのであります。斯ゝる前科者のうちには所謂悖德狂の者があつて、牢獄へ出入するのを惡いと思つて居らない者があるかも知れません。若しありとすれば、之は牢獄へ入れろよりは、病院へ入れる代物であります。何となれば腦の或部に發育不良のところがあつて、斯ゝる惡人罪人になるからであります。

淚の價は評價し難いほど貴いものであります。同情の心は人の所有して居る寶の中の寶であります。淚は枯れ、血汐は冷え、同情の絕無である人は、たとへ人爵は高くして他の羨望を招く程であつても、最も憫むべき始末に終へぬ猿と申すべきでありませう。而かも斯かる淚のない冷酷な人も、身體の先天性素因に關係がありさしたならば、其冷酷無情な人こそ私共の同情すべき者であると云つても差支へありますまい。

要するに、

(一)人の氣質は教育及び境遇によりて異るものでありますが、又專ら先天性の體質により異るものであります。

(二)故に各人各樣の特性があります。

(三)知識の發育は充分であつても、道德心の缺乏して居る人があります。

(四)道德的低能の人には善惡の判斷力が鈍く、悖德狂の人には善惡の判斷力がありません。

(五)淚は人類專有の寶で、禽獸蟲魚には決して淚がありません。

(未完)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

育兒

授乳時の攝生

千木庵主

昔から我國では非常に小兒を大事にする所から、却つて不必要事をし、空想的の醫學や、迷信やらを取交へて宜しからぬ事が多々あります。特に妊婦・產婦の攝生法、隨つて哺乳兒の取扱方に就ても、なか〳〵間違つた思想が殘つて居りまして、これは下級の貧困者よりも、寧ろ中等以上の生活をしてゐる家庭に多い。尤も母親及び小兒が一朝病氣に罹つたやうな場合には、勿論貧困者には充分の手當が出來ませぬからどうしても、富裕の家庭のものよりも成績の惡いのは當然でありますけれども、平素健康の場合には、富裕のもの、又僅かに知識のあるものは、兎角入らざる事をし、不要の心配をして自然を害する傾がある。その爲に、母親にも小兒にも害になることが尠なくないのであります。今日は單に授乳時の攝生に就て一言致す考であります。

凡そ婦人が妊娠し、分娩し、授乳するのは、決して病氣ではない、確かに健全の證據で、生理自然の働であります。それで妊娠したときには妊娠に最も適當した生理狀態になり、分娩するときには最も分娩に都合のよい狀態となり、授乳の時には一番授乳に適切な身體の狀態となる。これが皆自然に人の智慧を借らずに、自ら身體が左樣に微妙な用意をし、働をするやうになつて居るのであります。それですから小兒に乳を飮ませると云ふことは母親たるものゝ最も大切なる天職たるのみならず、自分の身體の爲にも種々の利益があるのであります。

斯樣に授乳は全く生理的のもので、身體が自然に乳汁を作り、充分哺乳せしめ得るやうになつて居るの

でありますから、日常の通りに生活すると云ふことが大切なことで、授乳時の攝生はこれで盡きて居るのであります。乳を小兒にやるのであるから、働いては不可とか、運動を盛にしなければ不可とか、餘計な變つた世話をするのが一番宜しくない、凡て過勞、安逸は何人にも宜しくないと同じく授乳婦にも宜しくないのであります。

乳婦が何か心配をするとか、悲しむとか或は腹を立つことのあるときに、一時乳の出がわるくなるやうなことがあります。然しこれは、ほんの一時のことで、續けて授乳すれば忽ち本の通りに出るものであります。又斯樣な場合に、小兒にその乳を與へると惡い、即ち乳汁の性質までが惡くなるといふ考は、西洋でも日本でも昔から廣く懷かれて居る觀念でありますが、これは何も確かな根據のない說でありまして、今日の學說の上では否定されて居る事であります。實際に於ても授乳婦の喜怒哀樂は、多少乳汁分泌の量には影響致しましても、その乳の性質にまで影響するとは思はれません、況や小兒の健康上には何等の害を及ぼすものではありません。

それから授乳時の飲食物でありますが、これも胃腸を害はぬ限りは何を食べても支障がない、好きな物を食べられるだけ食べて宜しいのであります。それを往々、何を食べると小兒が腹を惡くするとか、瘡が出來るとか樣々の事を申しますが、皆虛言、妄想に過ぎません。彼の牛を食へば角が生へる、兎を食へば耳が長くなると云ふ流儀の考であります。但し脂肪はそのまゝ乳の中にも出て來るやうであります、例へば豚や牛の脂肪は乳の中にも證明され、胡麻油もその變化せずまま乳の中に見出されます。けれども實際上、脂肪に富む食物を食べましても、それで小兒が腹を惡くするやうなことはありません。然し平素餘り運動もせず、安樂な生活をしてゐる人で、殊に肥り過ぎる傾のある人は、過剩の榮養物又は脂肪の多い物を食べると、却て乳の出が減ずるやうなことがありますから控へた方が宜しい。これ

と反對に、粗食をしてゐるからと云ふて、乳が惡いの、少ないのと云ふ事はありません、只甚しく榮養が不足で、それが永く續いて身體が瘦せると云ふ程になれば、これは乳の出方も減じて參ります。然し普通の所謂粗食といふて、麥飯に、大根や人參ばかり食べて、魚や牛肉を食べないから乳が不足になるとか、乳の養分が足りないとか、そんな事は決してないのであります。

授乳をして居る間は、普通食慾が亢進すると同時に又渇を覺ゆるものでありますが、これも病人でない限りは、只の水或は茶等で澤山である。特別に「ソップ」や葡萄酒などで渇を癒しても乳が良くなるわけでも、多くなるわけでもありません。

次に授乳時の月經に就て、大分心配する人もあるやうですが、これも支障ないことであります。通常乳を飮まして居る間は全く止まるか、或は長く間を置いて不規則に來るものでありますが、この際母乳の化學的分析を行つて見ても別に成分に變化は認められません。尤も月經の始まる前に多少血液循環の變調を來しますから、その爲に往々一時乳が減じて、小兒が氣六ケしくなり、或は僅かに下痢を起すやうな傾も見えますけれども、要するに授乳を廢する必要は更々ないのであります。

最後に授乳中の妊娠に就て一寸申しますと、一體授乳してゐる間は妊娠することが少ない、殊に授乳して居る間に月經の止まつてゐる人には妊娠は稀なものであります。然しこれは絕對に妊娠しないとは限らぬ、往々授乳してゐながら又妊娠することもあります。この時にも直ちに授乳を廢する必要はない。母親の爲にも小兒の爲にも別に害はない。妊娠がいよ〱確實になつた上で徐ろに授乳を止めるやうにするのが適當であります。

尙ほ授乳期間の服藥の事でありますが、これは前に申しました飮食物と同じく、何れの藥物も服用すれば、そのまゝ直ちに乳にも出て來るといふものではありません。只少數の藥物は實際乳にも出て來るも

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のがあります。例へば沃度とか砒素とか、「サリチール」酸とかいふやうなものでありますが、これに就ても小兒の爲に多少注意して母親に藥を與へなければならぬと申しますが、多數の學者並びに經驗家は別に心配することは入らぬものであると言ふて居ります。然し醫師は普通この點に注意を拂ふのが常であります。

酒も非常に澤山飲みますと「アルコール」の氣が乳に出て參りますが、これは日本の婦人には注意するほどの必要もないことゝ思ひます。

兒童の養護（承前）

ドクトル　三田谷　啓

父兄は子供を病氣に罹らせぬ樣に注意する外、進んで身體を鍛錬させる樣にしなければならぬ。卽ち强健法を講ずることが大切である。例へば氣候殊に寒氣に堪え得る體力を作るとか或は傳染病に對する抵抗力を作る等のことである。

兒童の身體强健法は種々の方面よりしなければならぬ。

一、水の作用

二、空氣の作用

三、衣服

子供が凡そ生後八箇月となる頃から溫浴と共に冷水を注ぐのであるが、此水の溫度は初めから著しく冷却したものではいけない。漸次此溫度を低くして行くのである。卽ち湯の溫度を漸々低くして行くのである。併し生後一年位の西洋の子供では攝氏三十度以下にしては惡い。日本では比較的あつい湯を用ゆる習慣があるから三十二、三度以下にせぬくらゐがよいと思ふ。

右に申す如く兒童の身體に注ぐ湯の溫度は極めて徐徐に低下して行かねばならぬ、初めは溫浴に用ゆる度より、攝氏一度だけ低いものを用ゐて凡そ之を四週間連用し、それから又一度だけ減じて行く、湯の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

溫度を計るには別に溫度計ができてゐるから之を應用すれば良い。

併し兒童の身體强健法は之を實行するに當つて常に醫家の指導を受けねばならぬ。兒童の健康狀態或は身體の强弱は區々であるから同じ法則を以て當て嵌めるわけには行かぬ。例へば甲の子供に適當の强健法となつても、乙の子供には害となることがある。之が兒童の養護に大切の點である。

小兒の身體を强健にする目的で每夕水で洗拭するのも良い。卽ち夕食前に肩、脊、胸、胴、脚、腕、顏、等の部位を水、海綿等で洗ふのである。水の溫度は初めは攝氏の三十五六度とし、一年の終りにもなると攝氏十六七度に低下して良いのである。其洗ひ方は極く輕ろくして三四度に及べばよろしい。それから其部分を乾かすのである。之がとりも直さず皮膚の鍛錬で此ために皮膚は低下の溫度に習慣性になるのである。子供は生るゝと同時に既に空氣の感作を受けるのであるが、初め兒童の室は攝氏十六度以上の氣溫にせぬ方が良い。生後三日も經つと攝氏十二三度の氣溫で風が無ければ適當に衣物を著せて外に連れて出ることができる。十四週間も經つと攝氏五度位の溫度でも風が無ければ暫時乳兒を外に連れて出ることができる。それから漸々其時間を永くすることができる、一番良いのは攝氏十五六度の氣溫で太陽の照つてゐる場所に二三分間子供を連れ出すことである。

初生兒の衣服のことは大きな問題であるから別に論述することにして此處では要點だけを述べて置かうと思ふ。第一必要なるは衣服の地が水と石鹼で容易に淸潔に洗ひ得るものでなければならぬ、又煮ることのできるものが適當である。子供の身體地肌に著けてゐた衣服は石鹼水の中に入れて煮るのが良い。それから之を取り出して溫湯で洗ひ然る後冷水で洗ひそれから流水で洗ひ次に之を乾かせるのである。之には太陽の光線に晒すのが最も適當である。

兒童の寢室として籠、箱、等を用ゆることがある。殊

に西洋では柳行李が用ゐらるゝ様になつた。此は水と石鹸と刷毛でよく洗ふことができる便利のためであるが、併し行李の中へ子供を入れて臺の上に置くと、子供が匍ひ出して臺から落ちることがあるので、此頃專ら用ゐらるゝものは子供用の「ベット」である。大抵四十乃至五十仙迷の高さに作らるゝのである。この「ベット」は周圍にかこひが出來て居て子供が轉んで落つるやうなことはない。

＊　＊　＊　＊

兒童を教養する場合に大切なことは整理と規則である。之は兒童養護の中心ともなるべき要件である。例へば兒童に整理的精神を能く注ぎ込んで置けば食事、排便、排尿等の事柄は時間的に整つてくる。之が既に教育の效能の表はるゝ第一歩である。斯の如くにして兒童は活潑となり、愉快となり、且つ行儀を覺えて來るのである。之に反し不規則的の教育は種種の弊害を生ずるのである。例へば授乳の時間、入浴時間、排便の時間等が不規則になつてゐれば、母の勞力は殆んど倍以上になつて來る。併し斯の如く不規則に流れた罪は母自己にありと云はねばならぬ。即ち母が不規則、不整理、不秩序を教へたものであると云はねばならぬ。

腹が空くと子供は泣く。乳を與へると直ぐに泣き止む。併し子供が泣きさへすれば腹が空いたのと思ふは大間違である。寒い時にも子供は泣き、又暑過ぎても泣き、退屈しても泣く。又空腹の時に乳を與へ過ぎても泣くのである。即ち過度の乳が胃中に入ると其爲に不快を覺え扠ては泣き出すのである。

右に述べた外乳兒は大小便のために衣物が濡れると不快のために泣き出すのである。それであるから乳兒が何故に泣くのであるか其原因を調べねばならぬ。

生後第一箇月位の乳兒では吸乳時と入浴の時だけ起し、其他は寢させて置くのが良い。幼弱の子供を動搖するのは善くない。何故かと云ふに幼小の兒童は筋肉及び靭帶は脊柱及び上體を眞直に持ち上げる程

に強くないのである。それだから子供を起して縦に抱くと身體が自然屈曲することになる。

既にして一年の後にもなると、筋肉、靭帶等は強くなるため子供を腕で抱いても良い。併し左手、右手と云ふ樣に交替性に抱くのが良い。變則にばかり抱いてゐれば子供の身體が變則となる。

右の如く規則正しく子供を教育すると、三箇月乃至五箇月の間に既に良習慣を得させることができる。例へば乳を飲んだ後十分乃至二十分に衣物をまくつて用便させる習慣をつける。さうすれば後には此時間に用便する樣になる。又五六箇月にもなると、子供は自分を世話してくれる人と他人との區別をする樣になる。母や看護する人が側に寄つて何か話すと乳兒は、それを喜ぶのである。此時は既に教育上大なる意義を有する時期である即ち此時に子供に從順の精神を養はせることができる。併し從順を嚴格に教へ過ぎて反つて子供の恐怖心を起させる樣なことがあつてはいけない。教育者は自己主義でも良くないし、又神經質で氣分が著しく變換する性質でも困る。

子供は人眞似をして智慧付いて行くものであるが、此模擬心をよく導くことが大切である。即ち良い例を示す樣にしなければならぬ。殊に言語の練習、遊戲等は此點に大に注意を要するのである。

兒童は既に幼少の時に遊戲をするのである。初めは自己の手を以て遊ぶのである。例へば生後三四箇月頃になると子供の周圍にあるものを玩具として利用する樣になつてくるのである。例へば衣服、布團等を手で掴んで喜んで遊ぶのである。進んでは之を口に運び又は之を壞さんと試みる。

* * * *

幼兒の精神を過激に刺戟することは避けられねばならぬ。人工的に色々の事を子供に要求して遂行させるのは良くない。世間では往々子供が早熟であつたり、又ませてゐるのを喜ぶ傾向があるため、人工的にかやうな子供を作らうとするものゝあるのは、大

へんな間違である。原則としなければならぬことは健康にして自然的に子供を發達させることである。幼時が二年になつても矢張り第一年の原則を守つて身體の發育に相當した養護をしなければならぬ。即ち此場合に於ても秩序と規則とを原則としなければならぬ。第二年に於ける幼兒の保護は之を第一年の者に比して容易になつたのである。必要なるは此時代の子供の看護として病氣になる機會を避ける様にしなければならぬ。又不潔でないか否やを始終注意してゐる必要がある。

入浴、夕方に於ける冷水清拭等は第一年で行つてゐたのを續けて行くのである。睡眠は第二年の半までは日中二三時間、夜間十時乃至十二時間を要するのである。日中天氣の良い日は外に連れて出て自由に遊ばせて空氣に對する抵抗力を強くする様に力めるのである。同時に又衣物の厚薄を顧慮し適當することが大切である。

幼兒の口腔及び齒牙の衛生は大切なことである。食

嚥水で口を能く洗ふ様にしなければならぬ。此年齢になると幼兒は起ち且つ歩むことができるから、種種の玩具を要する様になつて來るのである。又從來は乳を飲んでゐたものが自分に食物を手で取る様になるから食事の注意をしなければならぬ。即ち其量を適度に周圍の人が調節してやることが大切である。又食事を自分で行ふことを習ひ同時に清潔に食餌を取る様に習慣つけさせる様にするのである。此際必要なことは父母の兒童教育に關する意見が一致しなければならぬと云ふことである。即ち同じ目的を以て嚴格に兒童を育てることであるが決して暴に流れ粗に失してはならぬ。

少年衛生訓（承前）

ワイグル述
莊司秋次郎譯

強固法の第二の手段は水である

これは強い寒冷刺戟で、暫時の間に著しく體溫を奪ひ、冷たい空氣よりも遥かに強く作用するものである。故に其應用に際しては常に氣をつけなければならぬ、人間は決して兩棲動物ではないのである。

十數年前から誰も彼も強固の目的で行ふやうになつた水治療法は、往々身體を弱くするといふ目的と全く反對の結果を得る。即ち腎臟炎、膀胱加答兒、僂麻質斯、神經疾患、其他又全身の病氣と云ふやうな種々の病氣を起して居る。これは寧ろ當然の事で、一般の人が何の考もなしに只水治療法が效があると聞くと、無闇にこれを以て身體に應用する、これでは鶍の嘴とくひ違ふも不思議はない。殊に危險なのは小兒に對して斯樣な水治法を試みることで、これは醫師が特別に必要と認める場合でもなければ決して行ふてはならぬ事である。

強固法の手段として冷水を用ふるには、宜しく夏季に河なり海なり、戸外に於て沐浴し或は游泳するに限る、機會があるならば毎日行ふが宜い。但し次の如き浴法の規則を守らなければならぬ。

一、決して胃の膨れてゐる時に水浴に行つてはならぬ、水浴をするには晝食後少なくとも二時間は經てからでなければならぬ、水浴或は游泳する間に飲食してはいかぬ。

二、決して、せき込むで水に這入つてはならぬ、故に徐ろに浴場に行くやうにする。水の中に這入るときには呼吸及び心臟の働が安靜でなければならぬ。

三、決して餘り冷たい水に這入つてはならぬ、水の溫度は低くとも攝氏十五度即ち列氏の十二度位でなければならぬ。

四、水に這入る前には顔面、胸及び項部を強く擦つて洗へ、衣服を脱ぐや否や飛込むではいかぬ。

五、縱令泳ぐとも、十五分間以上水の中に這入つてゐてはならぬ。身體を涼しくし且つ強固にするには、これで澤山である。

六、水から上つたならば直ちに能く拭乾かし、速かに著物を著よ、裸で歩き廻はつてはならぬ。

七、浴後は自由に運動せよ、他の運動場で行ふやうに走るも跳るもよし、又遊戯、體操を行ふも宜しい、斯うすれば適度に溫まることになる。

凡て過激なことは害になる、これは水浴に於ても同じことで、脣が紫になつて慄へて水から上つて來るほど永く泳ぐは宜しくないことで、斯樣な事をすれば、夏の眞中に加答兒を起し或ひは咳嗽をしたりするやうになるのも怪しむに足らぬ。それから水から上つて、濡れたまゝ裸體で日に當るのも宜しくない、これが爲に皮膚が害され、鞣皮のやうになる。斯樣な皮膚は健康の皮膚のやうに働くことは出來ぬものである。

水浴の際起る不幸は大部分輕卒と不注意の結果である。水浴に關する經驗上の心得を無視するものは、如何なる間違が起らうとも、それは自業自得といふものである。此の機會に於て特に誡めて置きたいことは、餘所の土地に行つて能くも知らぬ河や湖水などに不注意に這入ることである。殊に山間の湖水又は溪川は危險である。斯樣な水は、上から又は地下の泉が加はる爲に、全體或はその一部の處で氷のやうに冷たいことがある。故に水が清冷で如何にも泳いで見たいやうな氣がしても、必ず其土地の人によく聞いた上でなければ這入つたりしてはならぬことである。

冬季及び戶外で浴し得ない季節に於ても、時として皮膚の強固に冷水を應用することが出來る。然しこれは充分暖めた室內でなければならぬ。水は攝氏の二十度、即ち列氏の十五度とし、大きな海綿或は布を以て頸、胸、項、背部を手早く洗つて、充分拭き乾かして衣服を著、室內を歩く。二分間位で著物を脱ぎ、洗ひ衣服を著てしまふやうにしなければならぬ。その後一時間過ぎぬ中は外出してはならぬ。この洗浴法は晩に牀に就く直ぐ前に行ふのが最も宜しい、さうすれば、牀の溫みで速かに皮膚の反應が起る。

（以下次號）

家庭衛生

一時性腦貧血の手當

腦貧血と云ふものは、固有の病氣ではない、寧、種種の病氣の症狀の一つとして起るものであります。然しこれは、治療上に於ても、又豫防の點から考へましても決して馬鹿にならぬ事であります。即ちこの腦貧血から突然に死亡し、或はこれから引續いて死に移り行くことがあるからであります。

腦の貧血は、啻に危險な驚く可き症狀を現すのみならず、何時までも榮養を害し、眞に腦髓に變化を來し易いものであります。

こゝには、何人も家庭に於て心得て置いてよい腦貧血の手當の事を主として申上る積りですが、それにしても腦貧血の原因に就て簡單に述て置く必要があります。

腦貧血は、屢〻次の如き原因に依て起るものであります。

甲、全身の貧血。この又原因は

一、慢性の貧血。その原因にも又種々ありまして、殊に

ア、血球或は血色素が多く破壞されるとか、或はその出來かたが少くなるとか云ふことが一つの原因になります。

イ、それから續發性貧血の種々の病型もこれに屬します。

ウ、あらゆる種類の慢性の出血もこれに屬します。

二、急性の貧血。その最も普通の原因は急性の出血であります。

乙、血壓が急に降ること。

ア、心臟の働きが弱り或は假死に陷る場合。

(1)凡て前に掲げた一、二の原因に由つて起

ります。

（2）殊に心臓の病氣、その中でも心臓の筋肉の變化、又は急に心臓が擴がること、その他心臓の內の瓣膜の病氣で心臓の室々の通ひ路の處が狹くなるとか、又心囊炎などに由つて起ります。

（3）廣い部分の肋膜炎及び胸廓の內の腫瘍。

（4）肋膜炎及び腹水などの時に、その溜つてる水を急に澤山出す場合。

（5）急激の精神感動。

丙、凡て腦に行く血液が妨げられて、腦に一部分の貧血を生じた場合。

ア、腫瘍に由つて頸動脈が外部から壓しつけらる時。

イ、黴毒などの病氣の爲に、血管が狹くなつた時。

ウ、血管の內に何か塊りが塞つた時、この時は大抵一部分の貧血を起す。

エ、腦の內部に腫瘍とか、膿瘍などが出來た場合。

或は腦水腫の時

この他に神經衰弱とか、精神病とか、或はこれに關係のある慢性の腦貧血もありますが、それはこゝには申上げません。猶醫者の方では、全部の貧血と、一部分の貧血、又急性の貧血と慢性の貧血と云ふやうに別けて論じて居ります。

精確な診斷は、素より醫者でなければ出來ませんが、腦貧血は、餘程特異な症狀でありますから、これは腦貧血であると認めることはあまりむづかしくはありません。

然し急性の場合でも慢性の場合でも、腦貧血はいろいろな風に起るものであります。

急性の貧血は、通常急激の出血、或は心臓の脫力に依つて起るものでありますが、その最も急なものになりますると突然失神するのが特異でありまして、病人は忽ち蒼くなり、氣を失しなつて倒れます。そ

して通常は數分間の後に覺醒いたしますが、元來虛弱な人になりますと、この失神が遂に歸らぬ旅となる事があります。

その原因になる處の出血などが、餘り急激でない場合には、腦貧血の症狀も緩慢で、病人は顏が蒼ざめ、眩暈がいたし、眼が暗くなり、耳がなり、頭がふらつき、脈は小さくなつて、數へる事が出來なくなり、段々氣が遠くなり、急に汗が出て、意識は溷濁し、或は全く消失し、時として病人は少しく譫語を云ひ、暫時或は長い間この狀態になつて居つて、貧血の原因及びその強さ次第で段々恢復し、或は一日も經つて後に恢復するやうなことがあります。

慢性の腦貧血は、全くこれと樣子が違ひまして、大抵は骨の折れる仕事に際して、蒼くなり、眩暈がすると云ふことを訴へます。又むづかしい考へ事が出來ない、意志の力も、智力もゆるみ話しをするのも大儀になり、往々眼の前に黑雲が見え、疲れて物を注意して觀察する事が出來ない。又自分の側で人が話しをしてゐるのを聞くのも煩さく感じ、身體も心も、安靜にして、人に妨げられずに、牀に就てる事を好むものであります。

その高度の貧血になりますると、ぼんやりして夢現の狀態となり、譫語を發し、無意味に手足を動かし、眞直に坐はる事も出來ず、聞く事も見ることも明かでない。これは惡性貧血などの場合に見る處の狀態であります。

次にかやうな腦貧血はどうなるか所謂豫後はどうかと申しますと、これは原因にも由り、病人の體質にも由り、殊に貧血の起る速度等に依る事で一概にきめることは出來ないものであります。

斯樣に申述て置きまして、腦貧血の手當に移りますが、最初に豫防法を述べるのが順序でありまするけれども、これは一般の貧血に對する豫防法と關連いたしますので、到底精しい事を說く譯にはまゐりませんが、まづ慢性の貧血に於ては、一部分は榮養を良くし、鐵劑及び砒素劑のやうなものを用ゐて一般

の貧血に對し、一部分は血液の不足を來すやうな凡ての有害作用を取り除き、或はそれを輕るくする事を講じなければなりません。

まづ除き得る處の原因の中には、餘り長く授乳をするとか、長い間下痢をするとか、その他種々の出血であります。

腦貧血の急性發作は、多くは醫師の手に依つて速に且つ有力なる手當を要するものであります。斯樣な場合には往々醫師もその眞因をたゞす暇もなくまづ以て應急の手當を加へなければなりません。

何れにしましても、第一の手當は腦の血液循環を速に恢復させる事を目的とするのでありまして、これには種々の方法があります。

（一）病人は血液が自然の重味に依つて腦の方に往くやうな身體の位置に置かなければなりません。失神が起りさうになり、或は已に起つたとすれば、病人は直に平に臥かし、或は頭を下げた方が猶よろしい、若し病人が甚だしく貧血して居り或は長く失神して居るやうな場合には、病人の足を持つて高く上げ、頭部を低く下げる必要があります、猶胃潰瘍と云ふて、胃に傷が出來てそれから血が出て、澤山血を吐き腦貧血を起すやうな事がありますが、こんな場合には、一日或は一週間も頭を下げ、足の方を高くして臥かして置く事があります。これには寢臺ならば簡單に寢臺の足の下に物をかつて高くし、枕を取り除けて置けば丁度よいのであります。

手足を布のやうな物で強く卷きつければ、血液を餘計に腦に送る事が出來ます。

（二）往々心臟の動きが弱くなり、腦に行く血液が外部の方から妨げられる事がありますから、兎に角急いで著物を緩るめ、循環や呼吸を妨げて居る處の襟とか、お腹や腰にある紐のやうな物は悉く取除かなければなりません。

（三）これと同時に、心臓及び呼吸を強める處の興奮劑を内外から應用いたします。

あらゆる種類の刺戟を外部から與へますが、これには、顔に冷水を注ぎ、危篤の場合には濡れ手拭或は手掌を以て頬でも、どこでも強く打つのがよろしい、これは確に心臓の作用を促し、病人に覺醒をさせる力があります。

身體の處々に熱性罨法を施のは有力なる刺戟を與へるものであります。即ち大きな布を熱湯にひたして絞り上げ胸部、心窩部に置き、たとへ病人に烈しい痛みを與へ、少々火ぶくれを起しても仕方がありません。さうして、速に罨法の場所を變へて、絶えず知覺神經の過敏の終末を新しく刺戟しなければなりません。

この他凡そ小皿の二倍程もある大さの、熱い濕た芥子泥を貼るのも大に效があります。これも胸とかお腹とか、腓腸部とか處々に場所を變へます。

これに反して、元來貧血性の病人で、その病氣のために力が甚しく衰へて居りますものでは、腦貧血の際に芥子を混せても混せないでも熱浴を應用させてはなりません。

（四）鼻の粘膜を刺戟するのも一つの方法でありますこれには「アンモニヤ」水、醋酸、「カンフル」酒精、芥子酒精のやうなものが用ゐられます。

長く失神が續きます時には、處々に電氣をかけ、心臓と呼吸に刺戟を與へて往々著しい效驗があります。

（五）この他に心臓及び、呼吸の中樞に刺戟を與へる種々の方法がありまして、人工呼吸の如きもその一つで、病人を長椅子又は大きな板或は地べたに寐かして、病人の頭の方に立つて兩肘の上の處を強く摑むで、腕を前上方に引上げ、胸廓を強く擴げるやうにいたしま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す。これに依つて血液は心臓の方へ吸ひ上げられるやうになります。それから腕を後下方にやり胸廓に密接させ、力を入れて壓しつけます。さうすると空氣は胸から壓し出される形になります。これは再び呼吸も心臓の働きもよくなつて、效能が現れるか或は全く望みの綱が切れてしまふまでは十五分乃至一時間位ゐまでも熱心に試みなければなりません。

（六）これと同時に、往々慢性の病氣の結果、甚しく身體が冷えて居る時には湯婆を用ゐ、或は暖かき布にて身體を包むで暖める必要があります。斯樣に外部から刺戟を用ゐて、心臓及び呼吸の中樞を反射的に興奮せしむる外に諸種の興奮劑を皮下に注射いたしまするが、これは醫者の仕事でありまするから、略して置きますけれども普通用ゐられる藥の名だけを擧げて見ますと、「エーテル」、「カンフル」と云ふやうな物であります。

尚興奮劑として酒精劑を飲せます。それは「ブランデー」でも赤酒でも但しは日本酒でも有合せの酒を稍多量に與へます。尚醫師は「アミールニトリット」又は「ニトログリセリン」などを滴劑として與へ、又前に擧げた「エーテル」及び「カンフル」も滴劑として用ゐます。この目的には麝香も昔から用ゐられたものであります。

若し病人が飲むことが出來ず、或は胃などに出血があつて飲す事の出來ない場合には、滋養液に興奮劑を混せて灌腸をいたします。急性或は慢性の腦貧血で、生命危險と見ゆる場合には、以上の藥品と共に食鹽水注入又は輸血法を行ひますがこれは勿論醫者の仕事であります。

藥の用ひ方

家庭に普通備へてある藥品に就ては勿論その用法を心得てゐなければ役には立ちません、或は却て害を招くやうなこともありまするし、假令醫師の診察を受け、その處方箋に依て藥店で調劑をしたものでも又は直接醫家の藥局から與へられた藥にしましても、その中には劇藥、毒藥の適當に調合されることが尠なくありませんから、これを服藥し又外用する場合でも、充分氣をつけてその用法を誤らぬやうに致しませんと、とんだ過を來し、少なくともその效能を減殺することになります。

藥物の分類は化學的の性質に依て分けるのが一番學問的でありますが、實用上にはその主なる治療上の作用に依て分けます。それでこれにも種々の分け方を致しますが、普通何方も聞慣れて居らるゝ名稱で申しますならば解熱劑、興奮劑、健胃劑、下劑、驅蟲劑、鎭痙劑、催眠劑、祛痰劑、利尿劑、強心劑、止血劑、強壯劑、防腐劑等がありませう。又その用法に依て注射藥、吸入藥、塗布藥、洗滌藥、罨法藥、點眼藥、含漱藥、撒布藥等に區別し、調劑の方法に依て飽和劑、浸劑、煎劑、乳劑、散劑、丸劑、茶劑、水劑、錠劑、膠囊劑、膏劑、坐藥等の種類があります。今此等の區別に從つて一々用法を述べますことは大變でありますから、極大體の必要な事だけの注意を申上げて家庭衞生上の參考に供し度いと思ひます。

醫師藥局又は處方に依て藥店から出します藥には、散藥なればその袋、水藥なればその緘に貼付けてある用法紙には必ずそれを用うべき病人の姓名、用法、用量、調劑の年月日、藥局又は藥劑師の氏名が記してあります。これにさへ注意をして用うれば先づ誤はないわけでありますが、往々内用藥と外用藥とを取違へて用うるやうなことがあります。これは甚だ危險なことでありまして、例へば何處かに劇しい疼痛のあるときに内用として處方された「モルヒ

子」を創のある處につけましても別に大した危險もありますまいが、若し罨法用として與へられた鉛糖水とか、洗滌用として與へられた昇汞水の如きものを誤つて飮むならば實に危險至極であります。又一家に二人の病人ある場合に、甲の病人の藥と乙の病人の藥を取違へ、甚しきは大人の藥と小兒の藥とを取違へて用うるやうなことがありまして、危險を招くことがありますから、必ずその藥袋或は罎標の姓名を讀み、尙ほ別々の盆に置いて、決して二人の病人の藥を一緒に置かぬやうにしなければなりません。

又用法の處には一日三回食後一包宛とか何とか記してありますが、これも決して無意味に記してあるのでありませんから、一日三回に服用すべきものを一日半或は二日に用うれば殆ど效驗が無いことになり、之とは反對に三回分を一度に用うれば勿論藥力が強くなり、藥に依ては中毒を起し或は一命にかかはることもありますから、これは必ず示された用法に從つて服用しなければなりません。その食前とか食後とか云ふことも、藥によつては大した差異のないこともありますけれども、物に依ては同一藥でも食前に用うると食後に用うるとでは全く反對の作用を來すやうなものもありますから、これも等閑に心得てはなりません。要するに藥局、或は藥店から藥を受取つた時に、その用法を讀むだ上に、尙ほ念の爲めに一應聞いて見るのが宜いしと思ひます。

次に殊に氣をつけなければならぬ藥劑は、非常に腹が痛むとか、咳嗽が甚しく咽喉や胸の痛い時などに處方される所謂鎭痛劑とか鎭痙藥とか云ふ種類のものでありまして、斯樣な場合には少しく量を誤つても危險を招くやうな劇毒藥の調合されることが多いのでありますから、一回分を用ゐてその效驗の顯はれるまで待ちかね、或は更に一層の效能を得んと欲して、次回に服用する時間の來ぬ中に二回或は三回分を一度に用うるやうなことは堅く愼むべきことであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

それから解熱劑は、一般に何んでもないものゝ如く心得て平氣で濫用される傾きがありますが、これも氣をつけなければならぬことであります。解熱劑は大抵心臟にも多少の作用を及ぼすもので、殊に近年使用される解熱劑には少量でも危險なものがあります。「アンチピリン」などの劇藥の中であると云ふことを忘れ或は知らずして、濫用し、急性中毒或は慢性中毒を起してゐる人の少なくないのは憂ふべきことであります。催眠劑も同樣であります。

次に危險の多いは驅蟲劑で、これには「サントニン」を始め、綿馬とか柘榴根皮とか其他「チモール」といふやうな孰れも毒性の強い藥物が應用されるのでありますから、小兒に蛔蟲が居そうだからと云ふて「サントニン」の如きものを用ひ、條蟲が居るやうな氣がするからと云ふて柘榴根皮を自分で煎じて飮むやうなことは甚しい無法なことであります。

尙は藥劑の形に依て注意すべき二三の事柄を申上げ度い考でしたが、都合に依て略さなければならぬことゝなりました。

抄錄

福壽曆

日本結核豫防協會にては結核に對する衞生上の注意を促さむが爲に大正五年福壽曆を發行したるが、その格言を三十一項に分ち毎日一項づゝこれを誦するの便に供せり左の如し。

一日　理想の天堂は夏の山と冬の海邊にあり。
二日　かあゆい子には阿膂させるな。
三日　人體は小天地なり生活に規律あること天體の運行の如くなるべし。
四日　肺病の痰は大なる爆裂彈なり。
五日　新人は結核の遺傳を信ぜず。
六日　精神の健全體力の強剛は最良の武裝なり。
七日　人込の都會よりも草深き田舍の空氣に値打あり。
八日　鼻毛は呼吸器を守る鐵條網なり。
九日　秩序のないポケットに金が溜る。
十日　夜更しに九層倍の藥を要す。
十一日　黃金の光よりも太陽の光。
十二日　蠅は病毒の配達夫なり。
十三日　結核を不治と思ふは舊思想なり。
十四日　姿勢正しからざれば內臟の均衡を得ず。
十五日　伸びたる爪の間は病毒の潛伏所なり。
十六日　嫌ひな滋養物よりも好きな粗食。

十七日　室内三時間の休養よりも戸外の一時間。
十八日　日光の入らない家には醫者が入る。
十九日　樂天快濶は萬病に克つ。
二十日　未開の社會は路上の放尿を咎めて咯痰を怪ます。
二十一日　深呼吸と冷水摩擦は健康を買ふの資本なり。
二十二日　卑濕の大厦よりも高燥の矮屋。
二十三日　不完全の咀嚼をするならば汝に與へたる齒牙を返せ。
二十四日　衛生は食前の洗手食後の含嗽より始めよ。
二十五日　睡眠足らざれば精力足らず。
二十六日　迷信は自ら作る陷穽なり。
二十七日　病者の公德心は多數の同胞を救ふ。
二十八日　身體は締りよきを貴び衣服は寛かなるを貴ぶ。
二十九日　水を撒いて埃を鎭め風を通して濕を拂ふ。
三十日　對話は三尺を離れ食後は三十分を休め。
三十一日　齒牙は磨くに依つて強く皮膚は浴に依つて病なし。

雜報

○加藤男爵薨去

本會の發起者、創立の元勳として終始賛成員たるの勞を執られたる學界の耆宿、樞密顧問官正二位勳一等文學博士法學博士加藤弘之男は去る九日午後一時薨去せられたり享年八十有一、病中特に兩陛下より御尋の使を賜はり、次で危篤の趣天聽に達するや位一級を進め正二位に敍せられ、旭日桐花大綬章を授けられたり葬儀は遺言により何宗教の儀式をも用ゐず告別式と稱して十二日青山齋場に於て行はれ、濱尾男爵故人の遺德功業を頌し諸團體の弔辭あり、本會は左の弔辭を呈せり。

> 私立大日本婦人衛生會賛成員樞密顧問官正二位勳一等文學博士法學博士男爵加藤弘之君ノ薨去ヲ哀悼シ痛惜ニ勝ヘズ抑〻本會ハ加藤男爵ノ發起ニ係リ創立ノ際其參畫ニ依リ會務緒ニ就クコトヲ得タルハ男爵ニ負フ所甚ダ大ニシテ深ク感銘スル所ナリ茲ニ謹ミテ弔詞ヲ呈ス
>
> 私立大日本婦人衛生會

右終りて遺族及び會葬者二千餘名の禮拜あり、遺骨

は茶毘に附し青山墓地に埋葬せられたり。

○御乳の人

府下中野町大字中野四五一八新炭商鈴木角藏妻道子は、第四皇子澄宮殿下御乳人として出仕することゝなりたるが、同家は十數代續きたる舊家にして道子は六年前に嫁ぎ長女お時(五)、次女お近(四)、長男庄太郎を擧げ、庄太郎は澄宮殿下御誕生後一週間の十二月九日に生れ、夫婦雙方の家は代々長壽の家筋なりと云ふ。

○女醫專生徒募集

牛込河田町なる東京女子醫學專門學校にては一學年生一百名を募集中なり、入學資格は高等女學校卒業者、出願期日三月末日迄とす。

○體操女教員講習會

文部省にては來る三月一日より二十日まで東京女子高等師範學校に於て體操科講習會を開き、講習員の資格は高等女學校の體操擔任教員にして地方長官の選定に依る、講師は東京女子高等師範教授二階堂トクヨ氏なりと。

○看護婦の不足

昨年十月看護婦規則改正の結果取締嚴重となりたる爲め廢業したるもの多く、准看護婦は以前に比ぶれば日給殆ど半額となれるを以て已むを得ず他に職を求め、一方に於ては看護婦試驗を受くる準備中のもの多く、病人多き二月の如きは悉く患家の需用を充たし得ざりし由なり。

廣告

○本會例會

本月五日午後一時より神田區一ツ橋通女子職業學校内に於て私立大日本婦人衞生會例會を開き宇野彌太郎氏は臺所の衞生と經濟に就て實地上の見地より詳說し主婦の爲に裨益する所甚大なるものありたり、次に横手博士は井戸と水道とに就て飲料水並に其他の用水に關し衞生上心得べき事柄を懇切に說明せられこれ亦聽衆者に日常衞生上最も重要なる多

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大の智識を與へられたり。閉會後階下の別室に於て暫く歡談の上散會せり。因に當日出席の役員氏名は左の如くなりき。

鳩山はる子　濱尾作子　近藤憲子　小川孝子
岡田德子　小松いさ子　田村きよ子　長谷川仲子
緒方悦子　瀨川さは子　宮本樂子　山口貞子
天野たき子　土肥多超子　寳賀歌子

○新潟支會新年會

同支會にては他三婦人會と聯合の上、一月十六日新潟師範學校附屬小學校に於て新年會を催し高田せん子女史の講話等あり非常の盛會を極め、夕刻に至て散會したり。

○新年會寄附

東京本會に於て一月八日新年會の際、副會長濱尾男爵婦人より左の御寄附ありたり。

一、金參圓
一、菓子壹折

○入會者

○河村てる子氏紹介

●赤坂區青山高樹町十四ノ三　通常　高洲みつ子

○田村きよ子氏紹介

●日本橋區元濱町十二　通常　新井壽美子

○事務所申込

●日本橋區北槇町　通常　小野かつ子
●新潟縣中蒲原郡白根町　通常　星野たち子

○新潟支會入會者

○石山りん子氏紹介

●風間きと子

○竹山れつ子氏紹介

●秋野さめ子

○中村しげ子氏紹介

●縫坂あふひ子

○轉居

●赤坂區ヨリ廣島市下中町へ　寺田豐作
●長岡市千手町三二〇へ　澤崎寛制
●芝區ヨリ府下大森新井宿へ　渡邊竹子
●府下代々木宮ヶ谷一四五六へ　藤本竹土子
●京橋區ヨリ麻布區龍土町二四へ　森永德子
●東京ヨリ神奈川縣大磯町字西小磯へ　石栗とせ子
●甲府市錦町一八へ　川上きん子
●岐阜ヨリ滿洲奉天獨立守備第三大隊長官舍へ　町田まつ子
●大阪市南區天王寺細工町谷五五〇八へ　小瀨よし子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 岡田德子
同 山本多穗子
同 松平芳子
評議員 石川貞子
同 濱田捨子
同 仁禮壽賀子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 丹波貞子
同 田村きよ子
同 男爵夫人 南部限子
同 山口貞子
同 古市幸子
同 伯爵夫人 阿部篤子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 宮下咲子

同 長谷川仲子
同 高木傑子
同 三浦敬子
同 羽田三緒子
同 服部繁子
同 西舛子
同 緒方悅子
同 小川孝子
同 片山龜子
同 高橋孝子
同 鶴原誠子
同 中濱芳子
同 子爵夫人 松井正子
同 小松いさ子
同 天野多喜子
同 菊池米子
同 宮本樂子
同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價		廣告料	規定
一冊	定價金貳拾錢 郵税壹錢	一頁 六十二行 一行二十三字	○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ケ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ
三冊（三ケ月分）	前金郵税共 金四拾五錢	壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢	
十二冊（一ケ年分）	前金郵税共 金壹圓八拾錢	○特別廣告 壹頁金拾四圓 半頁金五圓	
		○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢	

大正五年二月十七日印刷
大正五年二月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地 莊司秋次郎
印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 櫻井新三郎
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市麹町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鎗屋町 其明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區呉服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛作堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

强心新藥
ヂギタリス劑
PANGITAL

溶液15cc	¥ .95
粉末15gm	.95
壜球6amp	.60
〃 12 〃	1.10

パンギタールは當會社特製の最新强心藥なり、ロシュ會社製造のヂガレーンは現存のヂギタリス製劑中最副作用なきものとして多年醫家の愛用せる處なれども、幾多治療家の實驗に由り之を我パンギタールに比すれば副作用なき點に於ては略ゝ同樣なれども强心の效力に到つてはパンギタールはヂガレーンに勝ること著しきを認む。

今やヂガレーンは輸入杜絶の爲市價暴騰せり、效力一層優越にして代價低廉なる國産のパンギタールを使用せざる醫家ありや。

パンギタールは東京醫科大學教授醫學博士高橋順太郎先生の嚴密なる生理的試驗に由り一々其力價を檢定されしものなり、恩賜財團濟生會病院副院長醫學博士伊丹繁先生外諸大家の臨床的實驗に由り其效能の顯著にして、內服に胃腸の障害を來さず注射に疼痛を發せず又蓄積作用なき事證明せられたり。

用量　內服は一日一・五―三・○瓦（溶液並に粉末とも）注射は一回○・五―一・○立方仙迷。

東京室町

三共株式會社

雜誌第三百十五號（大正五年）■明治四十三年十二月

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN